令和4年度 特別の教育課程（書道科）の実施状況等について

高森台小学校

1. 本校の教育目標

- (1) 伝統的な芸術文化である書道に親しみ、書くことへの興味関心を高める。
- (2) 書道を通して、表現力の向上を図るとともに集中力を高める。
- (3) 書道を通して、道徳的心情や態度を育成する。
- (4) 「書のまちかすがい」に根ざして生活していることへの自覚を促す。

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

小学校第1～6学年において「書道科」を新設する。第1学年は、国語を30時間、生活科を4時間削減して新教科に充て、第2学年は、国語を30時間、生活科を5時間削減して「書道科」に充てる。第3～6学年は、国語を30時間、総合的な学習の時間を5時間削減して「書道科」に充てる。「書道科」において、書を書くという具体的な活動を通し、友だちと触れ合ったり、家庭生活での話題をもたらしたり、地域の人々とのかかわりを生んだりする。そこから、集団の中での自分の役割や行動の仕方を考えさせるとともに、「書のまち」に生きるよさと愛着をもたせる。

また、「書道」という伝統文化や「書のまち」を発信する地域の特性を探究する活動にも取り組むことを通して、表現力の向上と向上心の伸長を図るとともに、日本古来の文化や自分の生活する地域を振り返りながら自己の生き方をも考えさせる。

(2) 特例の適用期間

平成27年4月1日～令和11年3月31日

(3) 実施学年

1年、2年、3年、4年、5年、6年、(特別支援学級 単独でも実施)

(4) 地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は、三蹟のひとり小野道風の生誕の地と言われており、全国的にも数少ない書専門の美術館小野道風記念館を有し、「書のまち春日井」として、書道の普及発展に力を入れている。特に、小野小学校では、愛知県下児童・生徒席上揮毫大会が昭和11年から戦争中も途切れることなく開催され、第1回からの優秀作品を保管するなど、愛知県の書道教育の中心的な役割を果たしてきている。

書道は、「文字を正しく整えて書く」ことにおいて、従前から行われてきた国語科における書写の目的に共通するが、その文化・芸術性及び精神性においては、書写とは一線を引くものである。現在、児童の「表現力の向上」「心の教育の充実」などが重要な教育課題であると認識している。それらを解決するため、前述した地域性や学校の特色、さらには書道の特性を活かした「書道科」を新設し、表現力の向上を目指すとともに、よりよい作品をつくりあげようとする向上心、つくりあげた達成感から得られる自尊感情、相互評価などの他者との関わりから得られる親切心や規範意識等、特に心の充実を図りたいと考える。また、同時に郷土愛についても、書道を通して「書

のまち春日井」に根ざして生活している自覚を促し、育てていく。

(5) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

2に記載する特別の教育課程について、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に規定する小学校等の教育の目標に関する規定等に照らして適切であることを、春日井市教育委員会において確認済。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する評価

(1) 評価の観点

- ① 特別の教育課程の編成・実施により、学校の教育目標が十全に達成されているか
- ② 教育課程全体としてバランスのとれた教育活動が実施され、学校教育法に示す学校教育の目標が十全に達成されているか

(2) 自己評価

児童	<ul style="list-style-type: none">・最初に筆をおく位置や漢字とひらがなのバランスのとりかたを教えてもらったのでよかった。・先生が水書板に書く大きな文字がかっこよくてすごいと思った。・一緒に筆を持って字を書いてくれると書き方が分かってうれしい。
教員	<ul style="list-style-type: none">・間近で筆の運びを見られることは、子どもにとって新しい発見や喜びとなった。特に講師の存在は児童にとって刺激的で意欲向上の手立てとなった。・実際に一人一人に朱書きをしていただいたり、手を添えて筆の運びを教えていただいたりすることで、児童の理解を深めることができた。・低学年でも筆の運びや持ち方について正しく理解してから水書の指導を受けることで、安心して筆を使うことができた。
保護者	<ul style="list-style-type: none">・パソコンの普及に伴い「書く」という機会が失われつつある中で、学校の授業でその機会を得られることは有意義だと思う。・自分の目標を立て練習し、上手に書けたときに喜びを感じられるので、意欲が高まり自信がつく。・集中しながらバランスのとれたきれいな字が書けるように取り組むことで、普段の字もきれいに書けると思う。

(3) 学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none">・子どもたちがきれいに字を書きたいという気持ちが高まっていた。・低学年の頃から「筆」に親しむことで、3年生からの書写に意欲的に取り組んでいる。・美しい文字を目の当たりにし、子どもたちの集中力の高まりを感じた。
--

(4) 課題

<ul style="list-style-type: none">・「書のまち春日井」として、書道科を実施していく中で、「書道」に親しむことのみならず学区の書道家の方にも力添えをいただくなど地域全体で取り組むことも考えたい。・書道科の講師の先生との打合わせの時間をなかなか取れない。